

広報 じちしん

● 自治振興協議会連合会だより ●

▶ 第21号 ◀

【編集・発行】 福島市自治振興協議会連合会
【事務局】 福島市市民・文化スポーツ部
市民協働課
電話(535)1111(内線)3443・3444



高倉山（花咲山）／山田地区より吾妻連峰を望む

写真提供：大森・川浪廣次さん

会長あいさつ



福島市自治振興協議会連合会
会長 菅野 廣男

「自治振興協議会連合会だより」の発行にあたり一言ごあいさつを申し上げます。

自治振興協議会は、市民と行政がともに地域の課題解決や将来像などについて、直接話し合うことにより、情報を共有する場であり、昭和32年より福島市独自の地域広聴制度として実施されております。協議会においては、各地区特有の協議テーマが提出され、各地域において安全で安心して暮らせるまちづくりのため、行政との意見交換を行っております。

市長あいさつ



福島市長
木幡 浩

市民の皆さまには、日頃から市政各般にわたり、特段のご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は福島市で東北絆まつりが開催され、明るいムードで令和の新時代を迎えることができました。一方で台風19号により甚大な被害もありました。被災された方々の生活再建と大きな被害が生じた施設の復旧、営農再開に取り組みとともに、災害の検証を進め、防災対策の強化を、市民防災力の向上と併せて推進してまいります。

近年は、地域課題も多様化しておりますことから、今後も市民と行政が車の両輪のごとく協力して、地域の課題解決に向けて取り組んでいく必要があると感じております。

さて、昨年の台風19号の豪雨により福島市にも大きな被害が発生いたしました。被災された方々の生活を一日も早く取り戻すことや、道路・河川等の復旧が大きな課題となっておりますが、大変なときこそ地域の声を行政に届けることが大切であり、とりわけ各地区の自治振興協議会が果たす役割は重要なものと認識しております。

今後も自治振興協議会の活動を通じて、福島市の発展に寄与してまいりますので、皆さまのより一層のご協力をお願い申し上げます。

東日本大震災と原発事故から10年目に入る今年は、東京オリンピック・パラリンピックの競技が開催され、本市出身の古閑裕而夫妻をモデルにしたNHK連続テレビ小説の放送が始まり、福島市と復興に大きな注目が集まります。訪れる多くの方々に、復興に向けて挑戦する「実・湧・満・彩 福島市」の姿を発信し、地域の力に転化していきたいと考えております。

今年も、福島市の未来を大きく左右する重要な年となります。まちづくりの重要なパートナーである、自治振興協議会の皆さまと、「ワンチーム」となり新ステージを創ってまいります。引き続き、皆さまのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和元年度テーマトーク一覧

地区名	件名
中央東	福島市の持つ観光資源の有効利用
中央西	2020年東京五輪に向けて、福島らしいおもてなしについて
渡利	高齢者世帯への対策と人口減少対策について
杉妻	市民の健康づくり推進について
蓬菜	子どもや高齢者が住みやすいまちづくりについて
清水	福島市の観光振興と信夫山再生について
東部・大波	町内会が抱える問題と町内会への加入促進について
北信方部	子どもを育み子育てしやすいまちづくりについて
吉井田	子どもから高齢者までが生き生きと地域参加できる組織のあり方について
荒井・佐倉	東京2020オリンピック競技大会野球・ソフトボール1次リーグの県営あづま球場開催に向けての取り組み
土湯温泉町	東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の多言語化案内標識看板の整備について
笹谷・大笹生	高齢者への公共交通対策について
立子山	立子山地区の小・中学校について
飯坂方部	福島市の高齢社会への対応について
松川	松川地区の義務教育環境について
信夫	公共施設（旧平田幼稚園）などの有効活用と地域づくり
吾妻	農村部における高齢者対策
飯野	飯野地区における公共施設の今後のあり方について

ル・野球競技の開催に向け、県営あづま球場では改修工事が進んでおり、福島駅西口広場においては、大庇が福島県産木材を使って新しく改修され、多目的大型テレビの設置が予定されるなど着々と準備が進められております。

また、選手や観覧者のあづま球場までの輸送ルート

●市長との意見交換 (テーマトーク)

テーマトークは、平成30年度より設定された項目で、より良いまちづくりや様々な課題など主にソフト的な事項から、各地区においてテーマを選定して市に提出し、提出されたテーマに基づいて市長から市の現状や方針等の説明を行い、その後市長と参加委員が活発な意見交換を行っています。

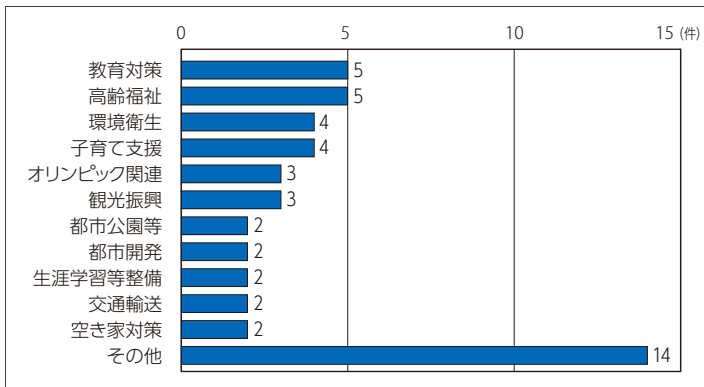
今回は、中央西地区自治振興協議会のテーマトークを紹介します。

「2020年東京五輪に向けて、福島らしいおもてなしについて」
(中央西)

テーマ設定理由

東日本大震災からの「復興五輪」という大会趣旨をふまえ「復興の火」が福島駅に展示されることとなり、その後47都道府県を巡回することが決まりました。

東京2020大会ソフトボ



◆令和元年度テーマトーク内容内訳



中央西地区自治振興協議会 (令和元年7月17日)

が地区内を通過することでした。

そこで、国内外からの多くの来訪者に対して「おもてなしと福島らしいアピール」についてどのような予定があるかお伺いしたくテーマを設定しました。

市長からは、オリンピックを契機に将来にわたって活かせるまちづくりに着手し、駅周辺についてはJRと連携して環境整備を進めていく予定であり、また、ハードの整備以外では人と人とのふれあいが感動を与えるため、来訪者の受け入れ体制強化と市民のおもて

なしの意識向上のための研修も充実させていきたいと説明がありました。

●参加委員からの意見

- 「世界で一番きれいなトイレ」を福島駅西口に設置してみてもどうか。
- 駅の東西を車椅子で移動できるような通路を確保して欲しい。
- 福島駅西口からコラッセまで屋根のある遊歩道を作ってみてはどうでしょうか。
- 「福島らしいおもてなし」を実施するにあたり、駅の周辺で関連イベントを企画してみてもどうか。

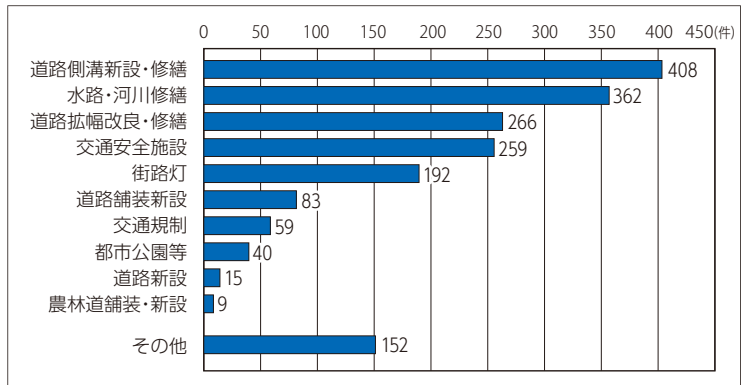
提案事項

令和元年度は、総数で1,845件の一般提案が市に対して提出されました。

内容別には、道路側溝新設・修繕が408件(22.1%)、次いで水路・河川修繕が362件(19.6%)、道路拡幅改良・修繕が266件(14.4%)、交通安全施設が259件(14.0%)、街路灯が192件(10.4%)、道路舗装新設が83件(4.5%)となっています。

昨年同様に道路や水路、河川に關係する提案が全体の9割近くを占めています。

より良いまちづくりを進めるために、地区の皆さんが身近な課題について協議・提案をすることによって、地区住民の意見が直接行政に反映されています。



◆令和元年度提案事項の内訳

市の対応

地域生活に密着した多くの提案が提出されていますが、市全体での実施率は約32%（平成30年度）と実施できる件数には限りがあります。

市では、事業の緊急性と市全体のバランスなど、総合的に勘案して事業を実施してまいります。提案内容の実現に向けて、最善の努力をしてまいりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

会長コメント



信夫地区自治振興協議会 会長 長尾 和榮

1964年東京五輪開会式。大空に描かれた五輪マークと古閑裕の「オリンピッククマーチ」の中での選手団入場は今も鮮明に思い出されます。それから五六年目の2020東京オリンピックは、県営あづま球場、野球・ソフトボール競技で幕が開けます。期待感で今からワクワクしています。

さて、信夫地区の特徴としては、スポーツ活動が盛んで、その証として市民体育祭では総合優勝十四連覇中です。さらに福島市の花観光名所の一翼を担っている大森・平田地区では、大森城山桜まつりやスイーツde花ウオー



向田地区道路改良工事(平成31年2月) 資料提供:国土交通省東北地方整備局福島河川国道事務所



盛土施工状況(平成31年2月)

ク、平田花咲きまつりなどの事業を展開しております。

また、誰もが健康に暮らせる地域への第一歩として「健都ふくしま創造事業・信夫の里健康づくり協議会」設立や、「信夫地域支え合いネットワーク協議会」による認知症見守り活動など、健康と福祉の面からも信夫地区らしい活動に取り組んでおります。

そして、信夫地区の未来に繋がる「令和の米沢街道」国道十三号福島西道路南伸事業においては、令和8年度開通の見通しが示されました。

計画区間唯一の平面交差周辺の沿道利用を軸とした地域づくりと、新たな信夫の里ブランド構築を目的とした地域振興施設建設に向け同盟会組織を立ち上げました。

今後も、市と関係機関と連携を図りながら、「ふくしまを元気に！新ステーション」を旗印に取り組んで参ります。

協議テーマの実施状況

自治振興協議会の協議テーマは、各地区の重要な課題や提言について、地区より現状と課題の説明を行い、市はどのような解決方法があるのかを示し、より良い解決策について話し合いを行っています。協議テーマに提案された事業について紹介します。

古荒川の整備について (平成30年度協議テーマ)

「荒川桜づつみ河川公園」の南側を東西に流れる「古荒川」は、近年の大雨により、氾濫寸前まで増水する頻度が高くなってきました。「古荒川」は、流入土砂や雑草が堆積し、中州状態になっております。流れを阻害し、川幅を極端に狭めていることから、甚大な洪水被害が発生する危険性が高いため、土砂や雑草の堆積物を、撤去することを要望しました。

市では、普通河川「古荒川」の堆積土砂の対策について、河川パトロールによる監視を行うとともに、地元の方々と現地確認をしながら、通水断面の阻害が著しい箇所について緊急性の高いところ

施工前



施工後



から河床整正を実施いたしました。

十六沼公園の総合的有効活用対策について (令和元年度協議テーマ)

十六沼公園には年間50万人以上の利用者が訪れており、西側駐車場の利用者が横断歩道を横断することなく、横切る利用者が多く見受けられたことから、横断歩道の増設を要望しました。

また、隣接している鬼越山の認知度が低いため、案内看板を設置して来園者にPRすること、十六沼公園に関する市の担当部署が複数にまたがっていることから、問い合わせ窓口を一本化すること等について併せて要望しました。

施工前



施工後



市では、福島北警察署へ申し入れをしたところ、横断状態の調査によって、同地において横断歩道外横断が多く、危険であることが判明したため、横断歩道を設置いたしました。

また、鬼越山に関する既存の公園案内看板へ「鬼越山」を追加することや、散策路入口への案内看板を設置し、来園者に鬼越山をPRしていきたいと考えております。

なお、公園施設に関することは公園緑地課、運動施設に関することはスポーツ振興課、農業用ため池としての十六沼に関することは農林整備課がそれぞれ担当しておりますが、今後、公園緑地課が総括窓口として対応いたします。

国・県等要望活動



要望活動（令和元年11月22日）

福島市自治振興協議会連合会では、国や県などが所管する道路や河川の整備・改修、信号機設置等について、地域の声を直接伝えるために、国・県などに対して要望活動を実施しています。

11月22日に福島県東北建設事務所に対し、道路改良整備及び令和元年台風19号により甚大な被害を受けた河川の災害復旧と治水対策等に関する要望書5件を提出しました。

福島県東北建設事務所からは、県民の安全安心の確保と生活の利便性・快適性の向上に結び付くよう事業を遂行するとの話がありました。

要望案件については、いずれも、子どもからお年寄りまで安全安心で快適な生活を送るために、大変重要な課題でありますので、引き続き国や県に対して地域の生の声を伝えてまいります。

要望内容

- ① 国道114号の安全確保について【渡利地区】
- ② 令和元年台風19号による大森川、濁川の災害復旧と治水対策について【杉妻地区】
- ③ 国道115号、主要地方道上名倉・飯坂・伊達線（通称フルーツライン）の維持管理と案内標識の設置について【荒井・佐倉地区】
- ④ 国道115号の整備改善について【大波地区】
- ⑤ 主要地方道土湯温泉線の道路改良工事の促進について【松川地区】

地区じちしん紹介²⁰

— 渡利地区 —



花見山

渡利地区自治振興協議会
会長 菅野 廣男

渡利地区は、「母なる川」阿武隈川を挟んで中心市街地の東側に隣接し、7つの橋で中央地区及び杉妻地区と結ばれています。昭和22年2月に、福島市へ最初に編入（合併）しました。西に雄大な吾妻連峰を眺め、「ふくしまに桃源郷あり」と称された花見山、弁天山、小島の森、国指定の重要文化財である木

造千手観音菩薩立像（大蔵寺）など、多くの観光・歴史的資源があります。

西部の平坦地には文教住居系の市街地が形成され、南部の高台にも大規模住宅団地の南向台ハイタウンが造成されるなど、地理的に中心市街地に近いことから、住みやすい生活環境が整備されました。近年、少子高齢化社会の中で、人口は減少傾向がありますが、1万5千人余りを擁しています。

あの震災、原発事故から9年が過ぎました。課題でありました除去土壌の搬出も完了し、心の復興に繋がっております。より一層安全安心な生活環境を整備するため、今年度の自治振興協議会では、「国道114号の安全確保」「花見山観光施策」「渡利中学校の体育館改築」について、市長との意見交換を行いました。早期実現に向けて、地域の皆さんと共に努力してまいります。

令和元年度

地域づくり支援事業

地域づくり支援事業は、地区自治振興協議会を通じて提出された提案などを、地域の皆さん自らが緊急性や利便性などについて話し合い、事業選定を行っていただくことで、市民と行政が協働で安全安心な住みよい地域づくりの推進を図ることを目的としています。

この事業は、ハードとソフトの両面からなる2つの事業で形成しており、ハード事業の「地域生活基盤整備事業」は、道路側溝や交通安全施設等の生活基盤の整備を行う事業です。一方、ソフト事業の「地域コミュニティ等支援事業」は、地域の課題解決や地域コミュニティの活性化などに取り組み、地域活動を支援する事業です。

地域生活基盤整備事業(ハード事業)

地域生活基盤整備事業は、地域生活における身近な生活基盤の整備を行うことにより、安全安心な住みよい地域づくりの推進を図ることを目的とした事業です。地域全体の視点に立ち緊急性・利便性などを考慮し事業が進められ、令和元年度は、約1億5千万円の事業費で、道路街路灯や道路反射鏡設置、道路側溝新設・修繕など各地域で計372件の事業が実施されました。

これにより、身近な地域課題の解決につながり、地域住民の不安解消など、安全で快適な住みよい地域づくりの推進が図られています。

令和元年度地域生活基盤整備事業
実施状況(ハード)

	事業内容	件数
1	街路灯設置	95
2	反射鏡設置	85
3	道路除草	57
4	道路側溝修繕	41
5	道路側溝新設	21
6	道路防護柵設置	16
7	カラー舗装	9
8	その他	48
計		372

(令和2年2月末現在)

道路側溝新設工事



施工前



施工後

令和元年度地域コミュニティ等支援事業
実施状況(ソフト)

団体種別	件数	実施内容等
町内会、連合会等	40	掲示板設置、広報誌作成、不法投棄防止活動、見守り・環境美化活動等
交通対策協議会	16	事故防止看板設置、交通安全啓発活動等
市民活動団体	11	観光案内板設置、地域のコミュニティ活性化、景観保全活動等
見守り団体	10	小学校登下校の見守り活動等
健全育成推進団体	7	交通安全啓発活動、防犯活動、見守り活動等
防犯協会	5	防犯カレンダー作成等
交通安全母の会	4	交通安全啓発活動
計	93	

(令和2年2月末現在)

これにより、地域コミュニティの活性化が図られ、安心して暮らせる地域社会づくりの推進につながっています。



安全マップの作製(吾妻地区)

地域コミュニティ等支援事業は、地域の課題解決や地域コミュニティの活性化などに自主的に取り組む地域活動を支援する事業です。令和元年度は、2月末現在で町内会報作成や掲示板の設置、不法投棄防止などの地域環境整備事業、交通事故防止活動や防犯活動、児童生徒の見守り活動など、地域活動を行う93団体に対して約1,360万円の事業費補助がされました。

地域コミュニティ等支援事業(ソフト事業)

連合会活動報告

総 会

令和元年度福島市自治振興協議会連合会総会は5月10日に開催され、平成30年度の事業報告、収支決算報告、令和元年度の地区自治振興協議会の開催要項や事業計画案、収支予算案について審議しました。

本連合会は、市民と行政が一体となった市政の発展と地域の振興、地区自治振興協議会の連絡調整を図ることを目的として、昭和61年に設立されました。現在、市内28地区の地区自治振興協議会会長により構成されています。

研修会および意見交換会

8月30日に開催した市政研修会では、土湯温泉町地区まちづくり協議会会長 加藤勝一さんより、東日本大震災により甚大な被害を受けた土湯温泉町地区において、地域の皆さんによる復興再生の取り組みについての講義を受けました。

講義の中では廃業旅館や空き店舗の解消や賑わい創出事業の

取り組みについて説明を受けました。そのあと、廃業した旅館を活用し新しく生まれ変わった「湯楽座」や「湯愛舞台」の見学を実施しました。

11月27日には、各地区自治振興協議会会長による意見交換会を開催し、次年度の開催に向け

て意見交換が行われ、台風19号に関連した意見も多く寄せられました。

なお、優良都市視察研修については、台風19号の影響を考慮し、今年度の開催については中止といたしました。



■市政研修会
(湯楽座 令和元年8月30日)



■意見交換会
(令和元年11月27日)

地区活動報告

令和元年台風19号豪雨災害により大きな被害を受けた地区において、国や県に対して緊急要望書を提出しました。

信夫地区自治振興協議会では11月7日に「一級河川大森川災害復旧・治水対策の強化」について福島県北建設事務所へ、土湯温泉町地区自治振興協議会では12月17日に「土湯温泉町地区の河川災害の復旧と流路工の整備促進」について東北地方整備局 福島河川国道事務所へそれぞれ要望書を提出しました。

地域住民の安全・安心な生活を守るため、被災箇所を速やかに原形復旧することや抜本的な治水対策を講じることなどを強く要望しました。



信夫地区自治振興協議会



土湯温泉町地区自治振興協議会